

「世界遺産」を守る

主幹 中村 昌子

早いもので今年もう半分が終わろうとしています。さる6月22日、私達日本人にとって、うれしいニュースがありました。富士山が世界遺産に登録されたことです。そのニュースの中で、登録が危ぶまれていた静岡県三保の松原もその中に含まれることになり、喜びに沸く三保の人々の様子がありました。その中でNPO法人「三保の松原羽衣村」の事務局長である遠藤まゆみさんという方がテレビやラジオに多く登場され、インタビューをうけていました。遠藤さんは、三保の松原にある羽衣ホテルの女将さんであり、実は附属大泉小学校の子どもたちがかつて大変お世話になった方です。2年前まで6年生が行っていた静岡修学旅行は、この三保の松原に1泊し、静岡フリータイムや富士山を臨む美しい海岸線をグループごとに歩く「三保の松原ウォークラリー」などを行っていました。遠藤さんにはフリータイムの講師として、三保の松原の「羽衣伝説」などについて教えていただきました。大泉小学校と縁のある場所が世界遺産に登録されることは私達にとってもとてもうれしいことです。同様に、6年生が訪れる日光の社寺、国際学級の移動教室で訪れる富士山、その周辺の忍野八海なども世界遺産です。移動教室と関係のある場所が世界遺産に登録されていることを改めて意識し、その価値を学んだり、どのようにしてこれから保護・保全していくかを考えたりする機会にしたいものです。

今年、6年生の日光移動教室に引率し、フリータイム学習で「歴史グループ」の子どもたちと一緒に輪王寺の住職さんから日光が世界遺産になったことでこんな苦労があるというお話を聞きました。「世界遺産として残すというのは、今ある姿をそのまま残すという難しさがあります。新しい設備を加えたり、逆にたとえ木一本でも勝手に切ったりすることはできないのです。補修工事といって当時の材料とほぼ同じものを使わなければなりません。新しい材料を使って補修すれば、もっと丈夫で、値段も安く済むこともあります。でも世界遺産は当時の姿を維持するからこそ、その価値があり、文化財となるのです。」輪王寺の三仏堂も現在補修工事中ですが、当初2～3年の予定で計画していたところ、一部を解体して調べてみると予想以上の痛みが見つかり、少なくとも10年、もしかするとそれ上の年月をかけた工事になるということでした。「世界遺産」に登録されるということは、ただ喜んでいるだけではだめで、大変な責任を負うことだということを学びました。グローバル社会に生きる子どもたちが、人類共通のかけがえのない財産である「世界遺産」と関わりをもつその第一歩として、本校の移動教室が位置付けてくれることを期待しています。